



# しもながや

令和4年1月31日 発行

横浜市立下永谷小学校

## 雪といえば鉄

校長 鈴木 陽一

ある教室を覗くと、詩の勉強をしていました。詩に表したいものを何かに例えて表現するのもよいということを学んでいる場面のような感じでした。(例えば、2年生の下巻の教科書の冒頭にある「赤とんぼ」の詩では、トンボを郵便のマークに例えて表現しています。)

「雪」をどう例えるかという話し合いをしているときにある子が、「鉄」と発言したのです。それを聞いた私も指導者も他の子も「???」そこで担任は、「なぜそう考えたの。」と問いかけました。すると「雪かきをするときにスコップを使うでしょ。そのスコップの先が鉄だから。」と説明してくれました。連想が2段になっていたのです。その子なりの想像力・考え方です。それを聞き周りの子も指導者も「なるほど。」となりました。私は、「1月6日には雪が降ったな。その時に雪かきをしたか、それを見ていたのかな。」とさらに想像しながら、その教室を離れました。

私を含め指導者や他の子どもたちは、はじめ「雪から鉄」を連想したその子の意図がつかめませんでした。ともすると学習の意図がわかっていないと、とらえられる発言です。指導者は、「何を言っているの。」とか「まじめに考えなさい。」などと言ってしまいかねません。しかし、「なぜそう考えたの。」と問いかけたことで、その子の意図や想いの一端に気づきました。子どもは、時に突飛なことをしたり、大人が理解しがたいことを言ったりします。しかし、その子なりの理屈や感性での行動や発言ではないのでしょうか。つい時間がないとしっかり聞かずにうけ流したり、こちらの理屈を押し付けてしまったりしてしまうこともあります。子どもの意図や考えをしっかり聞いて、共に考えることも大切ではないかと改めて思いました。そのことで、子どもの想像力や個性を伸ばすことにもつながり、その子なりのよさを育てることにもなるのではないのでしょうか。ぜひ、子どもたちの思いや考えをじっくり聞く機会をもっていただけたらと思います。

さて、年が開けてから日本全国で感染症が猛威を振るっています。本校でも、年明けから学校関係者の感染の報告があり、1月末には複数の学級で学級閉鎖となりました。感染拡大を防ぐ意味合いもあり、早めに学級閉鎖をしました。いつこの状況が好転するか見通せません。そんな中、感染対策をしつつ、できる限りの教育活動を進めてまいります。どうかこれからも本校の教育活動へのご理解ご協力をお願いいたします。保護者の皆様や地域の皆様におかれましても十分体調にはお気を付けてください。